

概要版(案)

# 徳島県学校マネジメント・学力向上実行プラン

## 「みんなでする」

学校・家庭・地域・教育行政  
「みんな」が連携して取り組む。  
子ども「みんな」が認め合い、  
高め合い、ともに伸びていく。

## 「つづけてする」

異校種間の連携を通して、  
「つづけて」取り組む。  
学校での学びを家庭や地域  
でも「つづけて」学習する。

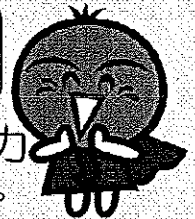
## 「とことんする」

一人一人の特性に配慮し、  
「とことん」指導する。  
学校の教育活動の改善に  
「とことん」取り組む。

# 自ら考え、判断し、表現できる子ども

## 「阿波っ子 学びのススメ 10か条」

みんなを応援  
しているよ!



- 1 「なぜ」、「どうして」から生まれ育む 課題解決の力  
疑問をもち、解決するために自ら取り組むことが学びのスタートです。
- 2 書くことで 自分の考え 確かなものに  
文字にすることで、自分の考えが整理され、明らかなものになります。
- 3 考えを 広げ深める 話し合い  
みんなの意見を聞き、自分の考えを伝えることで、学び合いが生まれます。
- 4 準備を整え きまりを守って 授業に集中  
学習のきまりを守ると、落ち着いてしっかり学べる場になります。
- 5 今日の学びを 家庭で復習  
復習をすると、授業の内容を整理でき、明日の学びにつなげることができます。
- 6 目標をもち 自分を信じて 根気よく  
目標に向かい、継続することでやりとげることができます。
- 7 読書で育む 言葉と感性  
読書で出会う「わくわく」が、言葉を豊かにし、心を耕します。
- 8 互いにあいさつ 笑顔あふれる学校に  
あいさつは、ともに学ぶ仲間と心を通わせる第一歩です。
- 9 早寝 早起き 朝ごはん 規則正しい生活リズム  
規則正しい生活をするので、今日のやる気が生まれます。
- 10 家庭で話そう 友だち・学校・ふるさと徳島  
何気ない話題でも、家族との対話から伝え合う力が高まります。

# 全国学力・学習状況調査結果からみる本県の状況

## 各教科の平均正答率(%) [平成24年度]

\*平成24年4月17日(火)実施  
\*小学校第6学年・中学校第3学年対象(抽出調査)

		主として「知識」(A問題)			主として「活用」(B問題)		
		徳島県(公立)	全国(公立)	差	徳島県(公立)	全国(公立)	差
小学校	国語	82.7	81.6	+1.1	55.7	55.6	+0.1
	算数	73.5	73.3	+0.2	57.5	58.9	-1.4
	理科	67.7	69.1	-1.4	56.0	57.6	-1.6
中学校	国語	74.6	75.1	-0.5	61.4	63.3	-1.9
	数学	63.1	62.1	+1.0	47.1	49.3	-2.2
	理科	57.9	56.1	+1.8	46.6	47.8	-1.2

◇は成果、◆は課題を示しています。

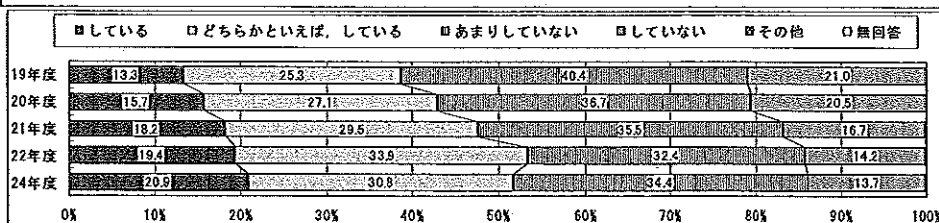
◇漢字の読み書きや筆順、計算問題等の多くが正答率で全国平均を上回っており、基礎・基本の定着がみられる。

◆全ての教科等において、自分の考えを書いたり、理由や根拠を示して説明したりすることに課題がみられる。

## 児童・生徒質問紙の回答例 [平成19~24年度]

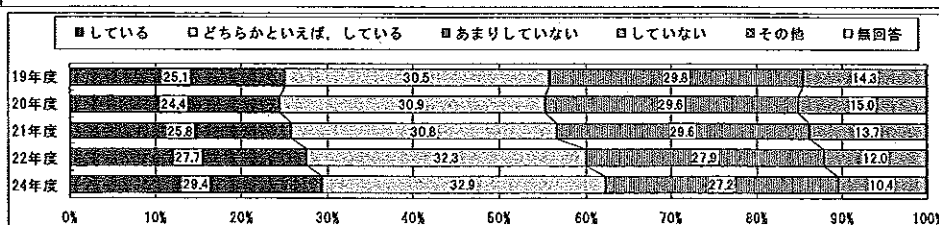
\*平成23年度は震災の影響等で実施されていません。

### 「家で学校の復習をしていますか」 回答:小学校6年生



◇家で学校の復習をしている児童の割合に増加傾向がうかがえ、全ての調査年度で全国平均より高い状況にある。中学生においても同様である。

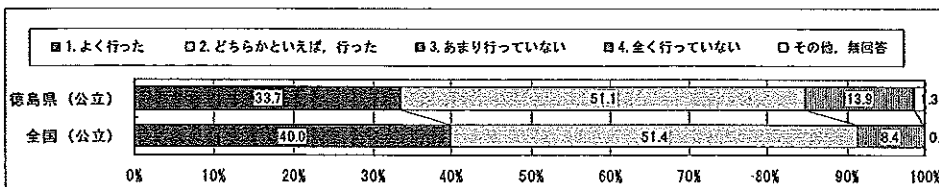
### 「家の人と学校での出来事について話をしていますか」 回答:中学校3年生



◆家の人に学校での出来事について話をしている生徒の割合に増加傾向がうかがえるが、全国平均より若干低い状況にある。小学生においても同様である。

## 学校質問紙の回答例 [平成24年度]

### 「児童に対して、学級全員で取り組んだり挑戦したりする課題やテーマを与えたか」 回答:小学校



◆児童に対して、学級全員で取り組んだり挑戦したりする課題やテーマを与えた割合が、全国平均より低い状況にある。中学校においても同様である。

### 「生徒が自分で調べたことや考えたことを分かりやすく文章に書かせる指導をしましたか」 回答:中学校



◆生徒が自分で調べたことや考えたことを分かりやすく文章に書かせる指導をした割合が、全国平均より低い状況にある。小学生においても同様である。

## 課題解決に向けた基本的な考え方

自ら考え、判断し、表現できる子ども  
「阿波っ子 学びのススメ10か条」の実現

「4つの方策」  
(裏表紙参照)

徳島県教育委員会では、「徳島県学校改善支援プラン」(平成20年度)に基づくこれまでの取組の成果として各校に定着したPDCAサイクルの更なる充実や、児童生徒の学力向上を図るため、「徳島県学校マネジメント・学力向上実行プラン」を作成しました。

本プランでは、課題となっている本県児童生徒の「知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等」を育成し、自ら考え、判断し、表現できる、これからの徳島を担う子どもを育むために、「阿波っ子 学びのススメ10か条」を示しています。

この10か条を実現するために、裏表紙にまとめた「4つの方策」を、県内全ての教育委員会及び公立学校、教職員、児童生徒や保護者、地域住民が共有し、「みんなで、つづけて、とことん」取り組みます。

本10か条では、学校・家庭における学習への取組の姿勢など、児童生徒の日常における様々な場面を幅広く想定しており、これらのことを改めて意識して学習・生活することが一人一人の学びや成長にプラスの影響を与えられと考えられます。

4ページには、本県の課題である「主として『活用』(B問題)に関する本県の指標」、「『4つの方策』に関する本県の指標(例)」及び「『阿波っ子 学びのススメ10か条』に関する本県の指標(例)」を示しています。今後、各学校においては、独自の具体的な成果指標等を設定し、保護者や地域住民と共有し、地域とともにある学校づくりを進めるとともに、本10か条の実現及び各校の具体的目標の達成に向け御協力いただけるようお願いいたします。

### 【4つの方策を実施するための県教育委員会の主たる取組】

#### 方策1 組織マネジメントの確立に向けた取組の推進

◇学校・家庭・地域が、育てるべき本県児童生徒像を共有するために

##### 【県教委の取組1】

- 「阿波っ子 学びのススメ10か条」の作成・提示

◇PDCAサイクルを更に充実させるために

##### 【県教委の取組2】

- 「学力向上実行プラン」様式の作成・提供
- ・作成方法等及び「学力向上実行プラン」に沿った取組等の流れの提示
- ・県の指標、成果指標(例)、取組指標(例)の明示
- 徳島県版「学力・学習状況調査」(徳島県学カステップアップテスト)の実施及び集計・分析ソフトの提供

#### 方策2 教育の質の向上

◇「活用」する力を育成するための研修の充実及び授業改善を実施するために

##### 【県教委の取組3】

- 「各教科等における『平成25年度の重点』」の作成・提示
- ・各機関における研修内容等の充実と優れた実践例の紹介
- ・学校訪問等における研究授業・研究協議などの充実
- 学力調査結果に基づくフォローアップ教材の開発・提供

◇校種間連携を推進するために

##### 【県教委の取組4】

- 幼・小・中連携推進事業「学びのかけ橋」プロジェクトの継続実施

◇児童生徒とかかわる時間を確保するために

##### 【県教委の取組5】

- 児童生徒にかかわる時間の確保についての検討の継続実施

#### 方策3 家庭・地域と連携し、一体となった取組の推進

◇学校・家庭・地域が、情報を共有し、協力できるために

##### 【県教委の取組6】

- 「あわ(OUR)教育発表会」の実施
- ・特色ある教育活動を展開している幼稚園・学校等が取組等について発表
- 広報誌やホームページ等による本県教育活動の広報

#### 方策4 外部人材の活用・社会とリンクした教育の推進

◇外部人材の一層の活用を推進するために

##### 【県教委の取組7】

- 人材バンクの更なる充実及び学校への情報提供

◇キャリア教育を更に充実させるために

##### 【県教委の取組8】

- 各機関が実施するキャリア教育に関する研修の充実

# 学力向上のための取組の流れ

月	過程	学力向上検討委員会		教職員	◇県教育委員会 ◆文部科学省
		校長	学力向上推進員・学力向上検討委員		
4	<p>P 計画</p> <p>D 実践</p>	学力向上委員組織づくり 指示確認 ●前年度の素案を基にした「学力向上実行プラン」の検討・作成 指示確認 ●家庭・地域への情報の提供・共有 ＊PTA総会，学級懇談会，家庭訪問，学校通信等 指示確認 ○「全国学力・学習状況調査」の出題内容の確認 指示確認 ★プランを学校ホームページに掲載	○校内研修等におけるプランの共通理解 ○「全国学力・学習状況調査」の実施 ★ホームページを利用した家庭・地域への情報の提供・共有	◇提出されたプランの確認 ◆「全国学力・学習状況調査」実施	
5		○プランに基づく全教職員による取組 ↓	○ホームページを利用した家庭・地域への情報の提供・共有		
6	<p>C1 評価</p> <p>A1 改善</p>	指示確認 ●学力向上推進員による研修内容の伝達 指示 ●自校の成果と課題の把握，評価 指示確認 ●中間期におけるプランの見直し 指示確認 ★プランの「具体的方策」中間期の見直しについて，学校ホームページ掲載の内容を更新	○校内研修等で研修内容等の共通理解 ★個人懇談等を利用した家庭との連携 ○校内研修等における共通理解 ○校内研修等における見直しの共通理解 ★ホームページを利用した家庭・地域への情報の提供・共有	◇「学力向上推進員研修会」開催 ◆「全国学力・学習状況調査」結果を公表	
7		○プランに基づく全教職員による取組 ↓			
8	<p>C2 評価</p> <p>A2 改善</p>	指示確認 ●自校の成果と課題の把握，評価 ●プランの見直し・更新	○校内研修等における共通理解	◇「全国学力・学習状況調査」結果を公表	
9		○プランに基づく全教職員による取組 ↓	★個人懇談等を利用した家庭との連携		
10	<p>C 評価</p> <p>A 次年度へ反映</p>	指示確認 ●学力向上推進員による研修内容の伝達 指示確認 ●自校の成果と課題の把握，評価	○校内研修等で研修内容等の共通理解 ○校内研修等における共通理解	◇「学力向上推進員研修会」開催 ◇徳島県版「学力・学習状況調査」結果を公表	
11		○学校評価のためのデータ等に基づく年間の達成状況の評価・改善策の明確化 指示確認 ★学校ホームページのプランを更新 指示確認 ●次年度の具体的目標等の検討・プラン素案の作成	★ホームページを利用した家庭・地域への情報の提供・共有	◇提出されたプランの確認	
12					
1					
2					
3					

## 主として「活用」(B問題)に関する本県の指標

全国学力・学習状況調査における国語、算数・数学の「主として『活用』に関する問題」(B問題)の本県平均正答率が、それぞれ全国平均正答率以上になる。(H29)

## 「4つの方策」に関する本県の指標(例)

○の項目は取組指標

### 【組織マネジメントの確立に向けた取組の推進】

- 1 学校の教育目標やその達成に向けた方策について、全教職員で共有し、取組に当たっている。  
(「よくしている」の回答率)[学校質問紙]

小学校 H24 57.5% → H29 100% 中学校 H24 29.6% → H29 100%

### 【教育の質の向上】

- 2 児童生徒の様々な考えを引き出したり、思考を深めたりするような発問や指導をしている。  
(「よく行った」の回答率)[学校質問紙]

小学校 H24 23.0% → H29 30% 中学校 H24 17.6% → H29 25%

- 3 児童の発言や活動の時間を確保して授業を進めている。(「よく行った」の回答率)[学校質問紙]

小学校 H24 36.4% → H29 40% 中学校 H24 16.0% → H29 30%

- 4 児童生徒が自分で調べたことや考えたことを分かりやすく文章に書かせる指導をしている。  
(「よく行った」「どちらかといえば行った」の回答率)[学校質問紙]

小学校 H24 87.5% → H29 92.5% 中学校 H24 82.9% → H29 88.5%

- 5 模擬授業や事例研究など、実践的な研修を行っている。(「よくしている」の回答率)[学校質問紙]

小学校 H24 47.4% → H29 60% 中学校 H24 22.3% → H29 40%

- 6 教科の指導内容や指導方法について近隣の中学校(小学校)と連携(教師の合同研修、教師の交流、教育課程の接続など)を行っているか。(「はい」の回答率)[学校質問紙]

小学校 H24 54.6% → H29 80% 中学校 H24 45.3% → H29 80%

- 7 前年度の全国学力・学習状況調査の問題冊子等や地方公共団体における独自の調査等の結果を、調査対象学年・教科だけでなく、学校全体で教育活動を改善するために活用した。(「よく行っている」「行っている」の回答率)[学校質問紙]

小学校 H24 85.0% → H29 100% 中学校 H24 70.4% → H29 100%

### 【家庭・地域と連携し、一体となった取組の推進】

- 8 保護者からの意見や要望を聞くために、学校として懇談会の開催やアンケート調査を前年度にどれくらい実施したか。  
(「年間に3回以上実施した」の回答率)[学校質問紙]

小学校 H24 44.2% → H29 70% 中学校 H24 56.6% → H29 70%

### 【外部人材の活用・社会とリンクした教育の推進】

- 9 地域の人材を外部講師として招聘した授業を行ったか。(「よく行った」「どちらかといえば行った」の回答率)[学校質問紙]

小学校 H24 84.1% → H29 90% 中学校 H24 51.9% → H29 60%

## 「阿波っ子 学びのススメ10か条」に関する本県の指標(例)

□の項目は成果指標

- 1 児童生徒に対して、学級全員で取り組んだり挑戦したりする課題やテーマを与えている。  
(「よく行った」の回答率)[学校質問紙]

小学校 H24 33.7% → H29 40% 中学校 H24 18.1% → H29 25%

- 2 学校の授業などで、自分の考えを他の人に説明したり、文章に書いたりするのは難しい。  
(「難しいと思う」の回答率)[児童・生徒質問紙]

小学校 H24 31.4% → H29 25.0% 中学校 H24 42.4% → H29 35.0%

- 3 普段の授業では、児童生徒の間で話し合う活動をよく行っていると思うか。

(「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」の回答率)[児童・生徒質問紙]

小学校 H24 73.8% → H29 80% 中学校 H24 44.1% → H29 60%

- 4 学習規律(私語をしない、話をしている人の方を向いて聞く、聞き手に向かって話をする、授業開始のチャイムを守るなど)の維持を徹底している。(「よく行った」の回答率)[学校質問紙]

小学校 H24 54.6% → H29 65% 中学校 H24 60.8% → H29 65%

- 5 学校の授業の復習をしている。(「している」の回答率)[児童・生徒質問紙]

小学校 H24 20.9% → H29 30% 中学校 H24 15.8% → H29 25%

- 6 将来の夢や目標をもっている。(「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」の回答率)[児童・生徒質問紙]

小学校 H24 85.1% → H29 90% 中学校 H24 74.6% → H29 80%

- 7 1日10分以上読書をする児童生徒の割合

小学校 H24 70.1% → H29 80% 中学校 H24 58.1% → H29 70%

- 8 普段(月曜日から金曜日)、何時ごろに起きるか。(「午前7時より前」の回答率)[児童・生徒質問紙]

小学校 H24 86.0% → H29 90% 中学校 H24 71.8% → H29 75%

- 9 学校や地域であいさつするよう指導している。(「よく行った」の回答率)[学校質問紙]

小学校 H24 86.0% → H29 90% 中学校 H24 75.1% → H29 80%

- 10 家の人に学校での出来事について話をする。

(「している」「どちらかといえばしている」の回答率)[児童・生徒質問紙]

小学校 H24 73.4% → H29 76% 中学校 H24 62.3% → H29 66%

# PDCAサイクルの更なる充実に向けた「学力向上実行プラン」

「学力向上実行プラン」においては、各学校におけるPDCAサイクルの充実を一層推進するため、現状分析、目標・方策設定、達成状況把握・評価、改善策について、次の3つの視点でまとめます。

- (1)「基礎的・基本的な知識・技能の習得」
- (2)「知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等の育成」
- (3)「主体的に学習に取り組む態度の育成」

(様式) 平成〇〇年度 ◇◇学校「学力向上実行プラン」

## 1 学力向上検討委員会構成

学力向上検討委員会		
	職名・校務等担当名	氏名
管理職		
学力向上推進員 委員		

**【委員会構成】**

- ◆管理職がリーダーシップをとる組織体制とする。
- ◆学力向上を目指した組織的な取組を推進する中心的な役割として、学力向上推進員を指名するとともに、学力向上検討委員会全員の課題・役割等を明確にする。

## 2 学力・学習状況における現状分析、目標等

### (1) 基礎的・基本的な知識・技能の習得

児童生徒の状況			
よさ	課題		
具体的目標(目指す子どもの姿)		成果指標	達成状況
具体的方策(教員の取組)		取組指標	
*1 〇〇の見直し			
達成状況を〇〇した改善事項			

**【児童生徒の状況】**

- ◆昨年度の取組の結果からみられる課題とその改善のための具体的方策を踏まえ、児童生徒の学力・学習状況について分析し、「よさ」、「課題」を明確にする。
- ◆調査対象学年・調査対象教科だけの課題として捉えることなく、学校全体としての課題把握を行う。

**【成果指標】**

- ◆『阿波っ子 学びのススメ10か条』に関する本県の指標(例)を必要に応じて参考にし、各学校独自に、年度内に達成を目指す子どもの姿を数値化し記述する。

**【取組指標】**

- ◆『阿波っ子 学びのススメ10か条』に関する本県の指標(例)や、『4つの方策』に関する本県の指標(例)を必要に応じて参考にし、教員の取組の度合いを数値化し記述する。

**【具体的目標】**

- ◆「阿波っ子 学びのススメ10か条」を参考に、各学校が目指す子どもの姿を設定する。
- ◆各学年の児童生徒の発達段階に応じた具体的な目標とし、学年間の系統性を考慮する。

**【具体的方策】**

- ◆具体的目標(目指す子どもの姿)の達成を目指して、教員が取り組む方策とする。
- ◆各教科等における重点を参考に、教員の具体的な取組を記述する。

**【留意点】**

- ◆全教職員が共有し、組織的・協働的な取組に生かせるプランとなるよう作成する。
- ◆各学校が目指す子どもの姿や「阿波っ子 学びのススメ10か条」及び成果指標を踏まえた現状分析、目標の設定となるよう留意する。
- ◆具体的目標等の数、プランのページ数は、各学校が実態に応じて設定する。

**【評価】**

次の4段階で年間の評価を行い、評価欄に記号を記入する。

- A: 目標を達成したため、次年度には新たな具体的目標等の再設定を行う。
- B: 目標を達成したため、次年度には数値目標を高めて引き続き取り組む。
- C: 目標を達成しなかったため、次年度には具体的方策を見直し引き続き取り組む。
- D: 目標を達成しなかったため、次年度には新たな具体的目標等の再設定を行う。

2 学力・学習状況における現状分析、目標等

(1) 基礎的・基本的な知識・技能の習得

児童生徒の状況		
よき	課題	
具体的目標(目指す子どもの姿)	成果指標	達成状況
		評価
具体的方策(教員の取組)	取組指標	取組状況
*中間期の見直し		
達成状況を踏まえた改善事項		

**【達成状況】**

◆学校評価(自己評価・学校関係者評価等)のためのデータ等に基づき、成果指標に照らした年間の達成状況について記述する。

**【取組状況】**

◆取組指標で設定した取組の実施状況について記述する。

**【中間期の見直し】**

◆「全国学力・学習状況調査」結果の公表時期において、設定した成果指標に照らして、具体的方策(教員の取組)を見直し、適宜、以後の方策について記述する。

**【達成状況を踏まえた改善事項】**

◆具体的目標(目指す子どもの姿)や具体的方策(教員の取組)等について達成状況を踏まえた検証を行い、次年度のプランに反映させる改善策を明確にする。  
◆特に未達成の目標については、その理由等を明らかにし改善策を講じる。

# 各教科等における「平成25年度の重点」

## 現在求められている学力

- 学習活動を支える基礎的・基本的な知識・技能
- 知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等
- 主体的に学習に取り組む態度

## 育てるべき重点的な能力

- a 二つ以上の考えや意見を比較して、その共通点と相違点を明らかにする能力
- b 根拠を明らかにして自分の考えを説明する能力
- c 課題を解決するために、複数資料から必要な情報を選択・収集し、それを分類整理して、自らの考え・意見を表現する能力
- d 自らの思考過程を振り返り、その思考過程を説明・評価する能力

## 本県の重点課題

「言語活動の充実」～全ての教科等において、書く・話す活動の充実を図る～

- ・多様な意見や考えが生まれるような学習課題を設定する。
- ・相手や目的に応じた必然性のある表現活動を取り入れる。
- ・伝え合いの場面を積極的に設け、伝えたいことを整理して伝えさせる。
- ・自分の考えの根拠を明確にして書いたり話したりさせる。
- ・話し手の意図を捉えながら聞くことを指導する。
- ・作業や体験を通し、実感を伴って理解を深めることができる活動を取り入れる。

## 国語

### 本県の課題

- ▼文章の内容や表現の特徴を捉え、目的や意図に応じ、条件に即して説明することに課題がある。
- ▼目的に応じて、複数の資料を結び付けながら読んだり、必要な情報を取り出して活用したりすることに課題がある。

### 目指す子どもの姿

- 読み取ったことやそれに基づいて考えたことを、目的や条件に応じて話したり書いたりして伝え合うことができる。
- 進んで本や資料を読み、課題解決のために必要な情報を選び、効果的に活用することができる。

### ①「付けたい力」を明確にした、「単元を貫く言語活動」の充実

- ◇児童生徒の主体的な意識を生かし、単元を通して、付けたい力にふさわしい言語活動を位置付ける。
- ◇書く機会や話す機会を増やす。相手や目的に応じて構成や記述を工夫したり、伝えたい事柄を明確にして自分の考えを伝え合ったりする機会を充実させる。

### ②課題解決のための、様々な文章や資料を読む機会の充実

- ◇課題意識をもたせ、その解決のために文章や資料を読む活動や目的に応じた効果的な読み方を選択する活動を取り入れる。
- ◇朝の読書活動や、図書館を利用した望ましい読書習慣につながる学習活動を充実させる。

## 社会

### 本県の課題

- ▼社会的事象の意味や意義、事象の特色、事象間の関連をつかむ力を高める必要がある。
- ▼社会的事象に対して、主体的に問題解決できる力を高める必要がある。

### 目指す子どもの姿

- 必要な資料を選択し、社会的事象の意味や意義を解釈できる。
- 社会的事象に関心をもち、自ら考え、自分の意見を説明できる。

### ①社会のしくみを理解するための学習の展開

- ◇地図や統計など各種の資料を読み取らせることで、社会の様子をつかませる。
- ◇「なぜ、どうして」という疑問をもたせ、児童生徒の意識の流れを考慮して、社会的事象の意味や意義をつかむ授業を構想し、社会のしくみを理解させる。

### ②児童生徒が主体的に問題解決する学習の充実

- ◇児童生徒の関心を高め、多様な意見が出てくる適切な学習問題を設定する。
- ◇問題解決のために、自ら考え、自分の意見を説明したり、話し合ったりする学習活動を充実する。



# 算数

## 本県の課題

- ▼分数や小数、割合の意味理解が十分でない。
- ▼文字式を利用した説明や関数についての意味理解が十分でない。
- ▼自ら筋道立てて問題を解決する力が十分でない。

## 目指す子どもの姿

- 数量や図形に関する基礎的・基本的な知識及び技能を確実に身に付けている。
- 算数・数学を学ぶ意欲を高めたり、学ぶことの意義や有用性を実感したりすることができる。

# 数学

### ①自力解決の場の保障と、練り上げの充実

- ◇自ら考える時間の確保を図り、思考力、判断力、表現力等を充実させる。
- ◇一人一人が考えたことを基に、学級で練り上げ、学び合わせる。

### ②ノート指導と板書の工夫

- ◇自ら考えたことをノートにまとめ、筋道立てて考えることができるよう指導の充実を図る。
- ◇比較検討した多様な考え方が分かりやすいよう、構造的な板書を工夫する。

# 理科

## 本県の課題

- ▼学習した内容に関する知識を活用し、日常生活に適用して考察したり説明したりすることが十分でない。
- ▼事物・現象をモデル等と関連付けて理解し、説明することなどが十分でない。

## 目指す子どもの姿

- 日常生活に見られる身近な事物・現象と理科で学習した知識・技能とを結び付けて考えることができる。
- 科学的に思考したことをモデル等を用いて表現し、思考を深めることができる。

### ①児童生徒の主体的な学習活動の充実

- ◇身近な事物・現象の中に問題を見出し、学習した内容と関連した課題を設定し、目的意識をもって、主体的に観察・実験を行う活動を充実させる。
- ◇日常生活に見られる現象を学習内容と関連させて考察する学習活動を充実させる。

### ②科学的に思考させ、表現させる学習活動の充実

- ◇思考したことを科学的な言葉や概念を使用し、図やモデルなどを用いて表現したり、説明したりする学習活動を充実させる。
- ◇観察・実験の前に予想や仮説を立て、観察・実験の後に考察を行う学習活動を充実させる。

# 生活

## 本県の課題

- ▼体験活動を通して得られた気付きの質を高めるための支援が十分に行われていないことがある。
- ▼一人一人の思考過程を丁寧に見取り、支援することが十分に行われていないことがある。

## 目指す子どもの姿

- 自分の思いや願いの実現に向けて、対象への働きかけや人のかかわり方などを自分なりに考え、主体的に活動することができる。

### ①気付きの質を高める支援の工夫

- ◇対象にじっくりと繰り返しかかわり、試行錯誤したり納得のいくまで追究したりできる体験活動を設定する。
- ◇子どもの伝えたい思いを大切に多様な表現活動を取り入れ、他者と伝え合い交流する場を充実させる。

### ②子どもに寄り添った見取りと支援

- ◇「指導と評価の計画」を作成し、学習活動や配当時間に応じて重点的に評価する場面を捉え、多様な評価方法で子どもの姿を多面的に見取っていく。
- ◇見取ったことに共感したり、意味付けたり、価値付けたりして、子どもに寄り添った支援に努める。

# 音楽

## 本県の課題

- ▼思いや意図をもって表現したり味わって聴いたりする力が十分に育っていない。
- ▼曲想と音楽の要素の働きを関連させて感受する力が十分でない。

## 目指す子どもの姿

- 音楽のよさや美しさ、表現の工夫について、基礎的な技能を身に付けている。
- 音楽の要素やそれらの働きを捉え、それを手掛かりにしながら思考・判断し、音楽を豊かに表現したり鑑賞を深めたり、音楽づくり(創作)に生かす。

### ①ねらい・学習活動・評価の一体化

- ◇学習指導要領の指導内容を踏まえ、指導のねらいや手立てを明確にし、子どもが感性を高め、思考・判断し、表現する一連の過程を重視する。
- ◇評価規準を設定する際には、「評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料」を活用するなどして、ねらいや学習活動との整合性を図る。

### ②子どもの思いや意図を音楽活動に生かす学習の充実

- ◇〔共通事項〕を支えとして、思考・判断し、表現する一連の過程を大切に授業づくりに努め、思いや意図をもって音楽表現したり、味わって聴いたりできるようにする。
- ◇感じ取ったことを基に試行錯誤し、言語活動などを通して築き上げた子どもの思いや意図を、歌唱・器楽・音楽づくり(創作)の活動の中で技能を高めながら表現する時間や場を設定する。

# 各教科等における「平成25年度の重点」

## 図画工作

### 本県の課題

- ▼形や色、材料などの特徴を捉え、表現意図やねらいをもって表現したり鑑賞したりする能力が十分に育っていない。
- ▼日本や諸外国の美術について着目し、生活を豊かにする美術の働きや文化について理解することが十分でない。

### 目指す子どもの姿

- 形や色、材料などの特徴を感じ取り、豊かなイメージをもって表現活動や鑑賞活動に取り組むことができる。
- 日本及び諸外国の美術文化について理解し継承・尊重するとともに、美術が生活や社会を豊かにする働きを理解している。

#### ①【共通事項】の適切な位置付けと、指導と評価の一体化

- ◇形や色、材料などを感じ取り、イメージを豊かに広げることができるよう発想や構想の場、鑑賞の場を工夫する。
- ◇学習のねらいを明確にし、評価規準を設定するとともに、いろいろな評価方法を工夫して、整合性のある指導と評価を行う。

#### ②美術文化に対する関心を高め、生活や社会を豊かにする美術の働きについて理解を深める学習の工夫

- ◇我が国や諸外国の美術の表現方法や意識などに着目し、よさや美しさを理解したり、相違点や共通点を検討したりするなどして、我が国の文化を誇りをもって受け止め、異なる文化を尊重するよう指導する。
- ◇身の回りの生活で使われているものや掛け軸・ふすま絵などを基に、美術文化と関連付けた学習などを通して生活や社会を豊かにする美術の働きを理解させる。

## 家庭

## 技術・家庭

### 本県の課題

- ▼習得した知識及び技能(技術)を、生活の中で活用している児童生徒が少ない。
- ▼教科の特質を踏まえた言語活動の取組が十分でない。

### 目指す子どもの姿

- 習得した知識及び技能(技術)を生かして、生活における様々な問題を解決しようとしている。
- 生活における課題を解決するために、言葉や図表、概念などを用いて考えたり、説明したりすることができる。

#### ①習得した知識及び技能(技術)を生活で活用する力の育成

- ◇習得した知識及び技能(技術)を、生活の中で工夫し創造しながら活用できるような題材・教材を開発・精選する。
- ◇授業で学ぶ知識及び技能(技術)が生活と深く結びついていることを、実践的・体験的な学習活動を通して実感させる。
- ◇習得した知識及び技能(技術)を生活の様々な場面で活用できるよう、家庭や地域との一層の連携を図る。

#### ②教科の特質を踏まえた言語活動の充実

- ◇言葉だけでなく、製作図や計画表といった図表、フローチャート等に技術特有の言語、衣食住やものづくりに関する概念などを用いて考えたり、説明したりするなどの学習活動を充実させる。
- ◇生活における事象やものづくりなどに関する実践的・体験的な学習活動を通して、様々な語彙の意味を実感を伴って理解させる。

## 体育

## 保健体育

### 本県の課題

- ▼新体力テストの結果から全国平均に満たない種目が多く、体力が十分身に付いているとは言えない。
- ▼運動する子としない子の二極化現象がみられる。
- ▼望ましい生活習慣が十分身に付いていない。

### 目指す子どもの姿

- 楽しく運動を行ったり、運動の楽しさ等に触れたりして、技能等を身に付けるとともに、仲間とかかわりながら、工夫して運動(学習)課題を解決できる。
- 生活リズムを大切に、健康で安全な生活を送ることができる。

#### ①生涯にわたって運動に親しむ資質や能力の育成

- ◇基礎的な身体能力が身に付くよう、指導内容の明確化と体系化を図る。
- ◇評価規準に基づいた客観的評価を実施し、その結果を指導改善や児童生徒への支援に生かす。

#### ②体力向上のための指導の充実

- ◇体力を高める必要性を認識させ、その知識・技能が身に付くよう「体づくり運動」の充実を図る。
- ◇学習したことを学校の教育活動全体や実生活で生かすことができるよう指導の充実を図る。

#### ③健康で安全な生活を送るための実践力の育成

- ◇自らの健康を適切に管理し、改善するための思考力・判断力などが身に付くよう指導を工夫する。
- ◇児童生徒が実生活で適切に判断し、健康・安全に行動できるよう指導の充実を図る。

道徳

本県の課題

- ▼自己の生き方や人間としての生き方についての考えを深め、自分のよさや課題に気付く学習が十分にできていない。
- ▼学年が上がるにつれて、自分自身のものの見方、考え方、感じ方を素直に表現できない。

目指す子どもの姿

- これからの自分に夢や希望をもち、伸ばしたい自己像や自己目標を意識して、社会的自立に向けてよりよく生きようとしている。
- 自らの思いを素直に表現し、自分とは異なる考えに接する中で、自分の考えを深め、自らの成長を実感することができる。

①豊かな学びで「生き方」を考える授業づくり

- ◇子どもの中に育てたい「芽」や「根」を、内面から揺り動かすことができるような学習が展開できるよう、学習指導過程、指導構想、指導方法等を工夫した授業づくりに取り組む。

②表現し考えを深める授業づくり

- ◇自分の考えを基に書いたり話し合ったりするなどの表現する活動を充実させ、児童生徒が自分自身への問い掛けを深め、心の成長を実感できるようにする。
- ◇とことん話し合いを深める授業、豊かな体験活動と関連をもたせた授業、心に響く魅力的な資料を使った授業などにより、子どもと教師がともに考え、悩み、感動を共有していく道徳の時間とする。

外国語活動  
英語

本県の課題

- ▼外国語を通じて積極的にコミュニケーションを図ろうとする意欲や態度を育てる授業の一層の充実が必要である。
- ▼英語を得意とする生徒と、不得意とする生徒の二極化がみられる。

目指す子どもの姿

- 外国語を通じて積極的に人とかかわったり、人とかかわることの大切さを感じとったりしている。
- 英語の学習に対して意欲的に取り組むとともに、コミュニケーションの手段として英語を活用できる。

①「コミュニケーションの場面や内容」の充実

- ◇児童生徒が積極的にコミュニケーションを図ろうとする意欲をもてるような、コミュニケーションの場面や内容の設定を工夫する。
- ◇中学校では文法事項をコミュニケーションを支えるものとして捉え、実際のコミュニケーションの場面で活用することを通して定着を図る。

②「読む」「書く」「聞く」「話す」の4技能の総合的な育成

- ◇中学校では語彙・文法事項等の確実な定着を図るとともに、教科書の内容等を効果的に扱い、4技能のバランスのとれた育成を図る。
- ◇英語の学習に対して意欲や充実感が高まるような言語活動や評価を行う。

総合的な学習の時間

本県の課題

- ▼問題解決的な活動が発展的に繰り返されるような探究的な学習となっていないことがある。
- ▼体験したことや収集した情報を基に話し合ったり、整理・分析したりする活動が十分に行われていないことがある。

目指す子どもの姿

- 自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決しようとしている。
- 友達と一緒に活動したり話し合ったりしながら、自己を振り返り、自分の考えや意見を再構築している。

①探究的な学習としての充実

- ◇探究的な学習の過程（「課題の設定」「情報の収集」「整理・分析」「まとめ・表現」）が発展的に繰り返されていくような学習活動を重視する。
- ◇多様な方法で収集した情報を、種類ごとに分類したり、細分化して因果関係を導き出したり、批判的・複眼的な視点で分析したりして、思考する活動へと高める。

②体験活動と言語活動の充実

- ◇体験活動を問題の解決や探究活動の過程に適切に位置付けるとともに、互いに教え合い学び合う活動や地域の人の意見交換や交流活動など、他者と協同して課題を解決しようとする学習活動を重視する。
- ◇体験したことや収集した情報を、言語により整理したり分析したりして考え、それをまとめたり表現したりして自分の考えを深める学習活動を重視する。

特別活動

本県の課題

- ▼学校や学級における生活上の諸問題を、言葉や話し合いを通して解決しようとする活動が十分に展開されていない場合がある。
- ▼異学年、幼児、高齢者、地域の人々など、異年齢の人たちとの交流活動を効果的に展開する必要がある。

目指す子どもの姿

- よりよい人間関係を築く力を身に付けているとともに、自分のよさに自信をもっている。
- 他者のよさや可能性に気付き、互いの考えや立場を尊重しながら協力しようとしている。

①問題解決を図る話し合い活動の充実

- ◇必要性のある議題や題材を設定し、話し合いを深めるため、適切な指導や支援に努める。
- ◇全体計画や年間指導計画の改善を図るとともに、活動状況が分かるように掲示物等の環境構成を工夫する。

②多様な考えをよりよい方向へまとめていく活動の充実

- ◇実践や体験を通して感じたり、気付いたりしたことを振り返り、言葉でまとめたり、発表し合ったりする活動を重視する。

## 「阿波っ子 学びのススメ10か条」実現のための4つの方策

### 組織マネジメントの確立に向けた取組の推進

「阿波っ子 学びのススメ10か条」・「学力向上実行プラン」の活用

- 校長のマネジメント力による組織の活性化
  - ・学校経営ビジョンの共有  
校長がビジョンやその背景等を全教職員にしっかりと伝えて共有
  - ・マネジメントの仕組みづくり  
ビジョンの実現に向けた校務分掌編成など組織構造等、運営の仕組みづくり
  - ・PDCAサイクルの充実  
成果指標等を設定し、学力向上実行プランを作成  
中間期の見直しと年度末の評価
- 教職員の協働による組織力の強化
  - ・学校組織の特長を生かす
  - ・教職員の協働  
教職員間のコミュニケーションの活性化  
各校務分掌・学年・教科等の担当間の共通理解や連携・協働

### 教育の質の向上

「各教科等における『平成25年度の重点』」の活用

- 「各教科等における『平成25年度の重点』」の共有・活用
  - ・教員の指導力向上・授業改善  
授業研究・研究協議等の実施  
効果的事例等の情報交換・共有
  - ・校内研修の充実  
学び合う集団として切磋琢磨  
全教職員による組織的・協働的活動
- 校種間連携の推進
  - ・各教科等の系統性を通じた円滑な接続  
目的・学習内容等の系統性の共通理解
  - ・相互授業参観等による共通理解  
相互授業参観や合同研修等の実施
- 児童生徒にかかわる時間の確保
  - ・各種調査・会議等の精選について検討
  - ・学校事務の軽減・効率化

### 家庭・地域と連携し、一体となった取組の推進

「阿波っ子 学びのススメ10か条」・「学力向上実行プラン」の共有

- 「阿波っ子 学びのススメ10か条」の共有
  - ・学校独自に設定した成果指標等の共有
  - ・学校における取組を家庭・地域でも継続
- 「学力向上実行プラン」の共有
  - ・家庭・地域への情報提供・共有  
PTA総会や家庭訪問等、様々な機会の活用  
学校・学年通信やホームページ等の活用
- 学校行事等への参加・協力
  - ・学校を核とした地域ネットワークによる安全で安心できる生活環境の形成

### 外部人材の活用・社会とリンクした教育の推進

○大学等との連携による学習支援等の活用

- ・関係諸機関・NPO・企業・大学等との連携の強化
- ・支援のための人材バンクの充実・共有
- キャリア教育の充実
  - ・キャリア教育と学力向上との相互補完  
学習への目的意識や学習意欲を向上させる
  - ・発達段階に応じた組織的・系統的なキャリア教育の実施
  - ・体験的な活動の充実により、児童生徒の社会的自立のため、必要な能力や態度を育成
    - ◇人間関係形成・社会形成能力
    - ◇自己理解・自己管理能力
    - ◇課題対応能力
    - ◇キャリアプランニング能力

「徳島県学校マネジメント・学力向上実行プラン」及び「概要版」の次のサイトに掲載しております。  
徳島県ホームページ <http://www.pref.tokushima.jp/hmva/school/>  
徳島県立総合教育センターホームページ <http://www.tokushima-ec.ed.jp/>  
問合せ先：徳島県教育委員会学校政策課学力向上推進室 088-621-3197